2024年7月

地域別交流会

開催レポート

2024年2月に「コミュニティ型（地域別）交流会」を、2週にわたって全国6カ所で開催しました。地域密着型だったこともあり、これまで以上に多くの方に参加いただき、フラットな繋がりや語り合いが実現しました。そこで、7月にも2024年度の採択先の皆さまに参加いただいて地域別交流会を実施しました。開催のテーマは「参加者のコミュニティになる」。交流会が初めての方、常連、教育関係者、企業、さまざまな立場の方々に参加いただき、「自分が本当に話したいことを話せる場」にしたいという思いをテーマに込めました。6会場で計172人の方に参加いただき、新たなつながりや気づきを生み出していただきました。

2024年7月20日

大阪・仙台・名古屋

大阪

仙台

名古屋

2024年7月27日

東京・岡山・鹿児島

東京

岡山

鹿児島

一般財団法人
三菱みらい育成財団

「自分が本当に話し合いたいこと」を深める

くじで引いた席に座っていただいた皆さんには恒例の「当日のお楽しみ」欄を使った自己紹介にチャレンジしてもらいました。「当日のお楽しみ」とは、あらかじめお渡ししてある参加者プロフィールに設けてある空欄のスペースのこと。今回は「実は私はこの中で一番〇〇です！」について、会場内の人にランダムに聞いて、その空欄を埋めていただきました。「実は私はこの中で兄弟が一番多いと思います」「実は私はこの中で一番の眼鏡コレクター」などなど、10分間の間にいろいろな方と自己紹介も兼ねて話してもらいました。

名古屋

仙台

鹿児島

東京

大阪

緊張がほぐれたら、次は「作戦カイギ」。作戦の目的は、自分が本当に話したいこと、深めたいことを考えて、お互いにアイデアやヒントを持ち寄り合うこと。そのためにまずは話したい、深めたいこと、自分の「テーマ」を思いつく限り付箋に書き出していきます。そこから、「そのテーマを考えることで、自分のプロジェクトはエンジンがかかりそうか」「そのテーマには、自分自身の想いやこだわり、願いは含まれているか」「私が考える『こうなったらいいな、嬉しいな』という状態につながっているか」などの視点から問いを深めていきます。精査していく中で、最も自分が話したいと思ったことを今度はA4の紙に大きく書き出し、同じようなテーマを持つ方々で4～5人のグループを作っていただきました。今度はこのグループでテーマを深めていきます。

岡山

東京

自分が本当に話したいことを深める、新しいアイデアを得る

新しいグループができたところで、自己紹介を兼ねての恒例「似顔絵リレー」。お題に沿って、順番にパーツを書き足していきます。お題は、世界に誇るキャラクター・ピカチュウ。黄色と黒のカラーリングは共通していましたが、いろいろな「ピカチュウもどき」が生まれ、会場は笑いに包まれました。

こうしたセッションを挟んで、いよいよ「作戦カイギ」本番。「子どもたちも教員も一歩を踏み出すためには何が必要か」「生徒たちの探究の本質的なアクションをどう促していくか」「教員のマインドセットの仕方」「産官学連携」「探究と研究は異なるという視点を持てているか」「必ずしも探究は言語化する必要はないのでは」などさまざまなテーマに対し、それぞれの立場の経験を踏まえた問いかけが行われ、アイデアや意見が飛び交いました。80分もの間、ディスカッションのボルテージは上がりっぱなしでしたが、休憩後には今度は皆で各グループの話し合った内容やプロセスを共有する「全体カイギ」を実施しました。1グループ1人が残り、他のメンバーはいろいろなグループをめぐって、どのような話し合いが行われたのかをヒアリングして回り、その後、自分のグループに戻って、得られた気づきやアイデアを共有していただきました。最後に、「問いの整理」「自分自身がどう感じたのか」「もっと誰かとこんなことを話したい」などを振り返るリフレクションの時間をとって、「作戦カイギ」のプログラムは終了となりました。

東京

仙台

岡山

大阪

名古屋

鹿児島

鹿児島

大阪

仙台

東京

名古屋

最後に、同日に開催している３会場をオンラインで結び、代表の方にコメントを頂きました。

「大学や地域企業が探究活動にどういう役割を果たせるかという点について議論を進めました」「生徒に探究委員という役割を担ってもらって、その探究委員が探究プログラムを進めているという事例を紹介していただきました。まさに発想の転換、生徒がリードするような授業の作り方、探究の作り方というのも大事なのではと思いました」「果たして探究学習のアウトプットは言語化だけでいいのか、非言語化というものがあってもいいんじゃないかという問いで大いに盛り上がりました」

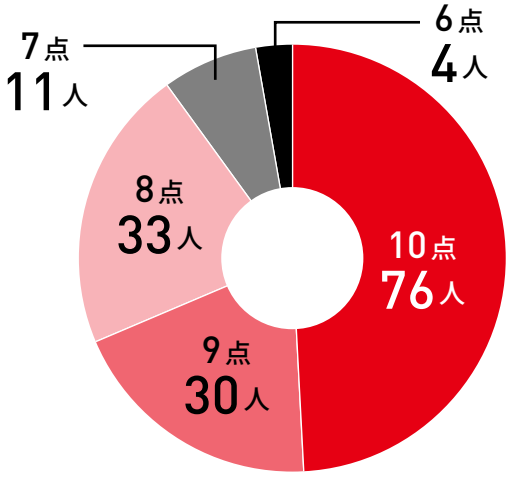
「作戦カイギ」の興奮冷めやらぬ熱い思いが語られるたびに大きな拍手が送られました。最後に当財団常務理事妹背から閉会のご挨拶をさせていただき、交流会は終了となりました。ご都合の合う方はその後の懇親会にご参加いただき、さらに親睦を深めていただきました。

東京

アンケート結果から

Q 本日のワークショップの満足度を教えてください。

10点満点で評価いただき、
約半数の方に10点をつけていただきました。



Q 新しい気づき、感想、今後取り組みたいことを教えてください。

▶探究に対して経験豊富な方々と今ある課題についてざっくばらんにお話ができて貴重な時間でした。大事にしたいと思っていたことや今実践していることなどに自信が持て、再認識できたことも有意義でした。(東京会場・カテゴリー1)

▶教師(大人)が常にアップデートをしなければ、子どもたちに教育することなんて…。改めて自分を振り返ることができました。(東京会場・カテゴリー1)

▶探究と研究は違うことをグループの方から教えていただきました。自分がイメージしていた探究は実は研究であったことに気づき、もう一度探究の理念や何のために行うのかということを考えたいです。(東京会場・カテゴリー1)

▶問いを投げかけるのではなく、生徒が問いを生み出すように工夫することが大切だとわかった。探究と教科学習は相互に影響しあい、補完し合うのが理想だと改めて思った。(名古屋会場・カテゴリー1)

▶外部コーディネーターの存在について考える機会を得ることができて良かった。(大阪会場・カテゴリー1)

▶新たな学びに出合いに行くことも大事だけれども、今ある手元のカードの組み合わせ方で新たなアイデアが創出できるのだ、と実感させられるような学びも必要ではないかというお話しに大変感銘を受けました。(大阪会場・カテゴリー1)

▶教員自身、発想力を高め、横断的な視野を持つことが重要だと感じた。また正解や模範解答を目指してしまうが、必ずしもたどり着く必要はなく、探究の答えが後ろや下に下がっても良いとわかった。(大阪会場・カテゴリー1)

▶今年から探究担当になって何をしていくのか全く分からない状態でしたが、他の高校や大学の方々と現状や今後等について共有したり話し合えたりしたことは、本当に貴重でした。(岡山会場・カテゴリー1)

▶意欲的な先生方と出会えてとても良かったです。なかなか探究の推進者が少ない中、励みになりました。学年をまたいだ交流や社会との接続の重要さを改めて感じました。社会の変化に教育が対応していかないといけない！と強く思いました。(岡山会場・カテゴリー 1)

▶探究活動で迷子になる生徒がいるが、得てして形を作るために改善、良くするエクセレンス（技術の積み上げ）に導こうとする。でも全く違うやり方こそが、イノベーションであるので、従来の型通りに子どもをはめていくと、イノベーションは起きない。という視点が目からうろこだった。(東京会場・カテゴリー 2)

▶探究の学びを出口（進路やキャリア）に繋げていくことは重要だが、そもそも楽しいプログラムになっているか、運営する側の押し付けのようなものになっていないか、関わっている教員自身が自分事化できているか（進路指導をする立場として、探究とキャリアを紐づける知識や経験を積めているか）など、考えさせられた。(東京会場・カテゴリー 2)

▶外部（NPO、企業、大学・学生）の活用は、高校の先生方にとってはそこまで身近で気軽ではないのだなと実感。だからこそ今日のように、いろいろな立場の方が混ざったテーブルで話せて良かったと思います。(大阪会場・カテゴリー 2)

▶共通課題として学校間・企業間の探究成果・成功事例の共有は発展途上であることが分かった。共通のオンラインプラットフォームを作ることに関して民間企業としてできることがあるかもしれないと思うとともに、まさにこの交流会の場が成功事例の共有の場として最適だと思いました。(鹿児島会場・カテゴリー 2)

▶先生に、教えるではなく、伴走の姿勢をお伝えしてきましたが、「生徒にリードさせる」スタンスづくりが新たな視点だったし、ぜひやってみようと思った！(鹿児島会場・カテゴリー 2)

▶教育現場の人間ではないという立場から参加させていただけたことに感謝です。教育経験がありませんが、高・大学向けのプログラムを企画しており、学びが深かったです。また地域で教育現場に立つ先生方と繋がることができ、良かったです。(岡山会場・カテゴリー 3)

▶交流会は初めての参加、かつ助成いただいているプログラムに携わったのも２カ月前からと、大変新参者でしたが、その分、さまざまなことを吸収する良い機会になりました！ グループのメンバーも、高校の先生や大学の先生、それぞれを繋ぐ場の方など、多様な方と議論でき、それぞれが繋がるアイデアが生まれそうです。(東京会場・カテゴリー 4)

▶高校の先生や企業の方と直接お話しして、現場での苦労や、労働環境の問題などを改めて感じることができました。そのような中で、取り組んでおられる先生方に敬意を表するとともに、大学として研究者としてどのような支援ができるのか、考えていきたいと思います。(大阪会場・カテゴリー 4)

▶「学校と社会とのリンク」＝「多様な立場の人々との繋がり」だと感じました。そのうえで「どう繋ぐか？（マッチング）」が課題だと感じたので、この点をもっと話し合ってみたいと思いました。(岡山会場・カテゴリー 4)

▶実際に高校の先生方とお話ができ、どのような取組みや課題があるのか知れて良かった。受け入れる側の大学がまだまだ整備されていないことが多いので、連携も深めつつ、支援できそうなことも多いのでしっかり対応していきたい。(鹿児島会場・カテゴリー 4)